

同窓生の 図書紹介

松江藩のお種人参から

雲州人参へ
(島根の歴史小説集)

板垣 衛武 著 (商昭35卒)



本書は、筆者が青春時代過ごした島根を舞台にした歴史小説(同人誌「関西文学」「文藝かうべ」に発表したもの)を再録したものである。構成は4つの小説からなり、テーマは、島根の文化資源である雲州人参と石見銀山である。本題となっている「松江藩のお

種人参から雲州人参へ」は、松江藩人参係り新蔵・茂蔵父子が43年の歳月をかけて、朝鮮人参の商品化に成功した物語である。「石見銀山―尾紅間歩―」「石見銀山―須佐高檜城と銀山山城―」「石見銀山―釜屋間歩と大久保間歩―」の3つの小説は、石見銀山開発・争奪を巡る人間模様が物語となっている。筆者が、あとがきで「釜屋間歩の最盛期つまり慶長年間、釜屋間歩だけで千五百人が働いていた。銀山に一万数千人の人々が暮らしていたのだろう。そんな昔に戻ったと思うと不思議な気がする。」とあるように、ユネスコ世界文化遺産に登録された石見銀山のある島根県大田市大森町には、江戸時代の銀山最盛期には、二十万人が暮らしていたが、過疎・高齢化が進み現在では四百人余が暮らしている。ここには、世界から注目されているモノづくりの拠点がある。一つは、本物の日本文化をベースにした暮らし豊かな衣食住を提案する「群言堂」、もう一つは義肢装具・人工乳房・医療器具等を製造販売し障害者をサポートする「中村ブレイス」である。本書は、歴史小説集ではあるが、江戸時代の人々が懸命に、モノづくりに励む姿が描かれている。歴史や産業遺産、まちづくりに関心のある方は、ぜひ本書を携えて、

朝鮮人参によって財政を立て直し多くの文化が生まれた城下町松江、少し足を延ばして石見銀山のある「幸せな田舎暮らし」を実践している大森地区まで足を運んでもらいたい。最後に、筆者に大森の多くの民を飢えから救った「いも代官さま・井戸平左衛門」をテーマにした小説の出版を要望する。
(山陰中央新報社、2016年5月、1,200円+税)
上村 修三記(商昭53卒、創院平26修)

日本国中にクロネコヤマトを走らせた信念と情熱の人
小倉昌男

仲 俊二郎 著
(経昭40卒 本名仲元俊二)



これまで書いてきた小説とは違い、このたび小学生向けの絵本を出しました。私が文章を、福場さおり氏が絵を担当しました。

外を歩いていると、クロネコヤマトのトラックを見ない日はありません。今では宅急便は当たり前のごとし、日常生活に入りこんでいます。小荷物を送るのに、簡単な手続きで翌日に着きますし、果物や魚なども新鮮なまま届けることができるのです。私たちの生活は本当に楽になりました。

でも四十年ほど前までは、ちよっと小荷物を送ろうと思っても、そう簡単にはいきませんでした。郵便か鉄道で送っていましたが、何日もかかり、いつ着くか分からなかったものです。それに荷札を付けたり、ヒモで荷造りしたりで、けっこう面倒でした。

こんな不便を解消し、私たちの生活を便利にくれたのが、クロネコヤマトの小倉昌男という人です。テレビや冷蔵庫、パソコン、携帯電話など、便利なモノが次々と発明され、世に出てきました。一方、小倉昌男は同じ便利さでも、有形の「モノ」ではなく、宅急便という無形の「サービス」を発明したのです。

しかし、ここへ至るまでには多くの苦労と困難がありました。宅急便は一言でいえば、天才的なひらめきがあったわけではありません。どうすれば人々の生活が便利になるか。いつもこのことばかりを考えていました。本書は、

どうして宅急便はできたのかその誕生物語りを、子供向けの絵本として書き上げたものです。

(栄光出版社 2016年7月15日刊
電話03-3471-1235
1200円+税)

(著者による紹介)

アートの力と 地域イノベーション (芸術系大学と市民の創造的協働)

本田 洋一 著 (創院平22修)



筆者は、60歳にして博士号(創造都市)を取得し、現在は、奈良県斑鳩町参与(地方創生担当)として、地域創造に取り組んでいる実践研究者である。本書のはじめに、「いま、次の時代をつくる新しい動きが、地域において始まっています。さまざまな場所で、それぞれの地域の多様な資源を活かし

ながら、文化の創造性を地域発展の原動力とする取り組みが試みられていきます。その中軸を担っているのは、市民、各分野のアーティスト、その集積の拠点である芸術系大学です。本書の主人公は、各分野、各地域で取り組みを進めている多くの人々とその協働の取り組みです。」とあるように、本書では、茨城、東京、福井、京都における芸術系大学と地域(市民・地域産業・公共団体)との民産官学連携・協働による地域創生プロセスを丹念に取材して、文化の創造性を源泉とする地域イノベーションの発展に向けての5つの政策課題と展望を示唆している。

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けての文化プログラム基本構想(文化庁)によると、2016-2020年の4年間で、20万件の文化イベント、5万人のアーティスト参加、5000万人の参加、訪日外国人旅行者4000万人に貢献して「文化芸術立国」を目指す。また、京都文化力プロジェクトでは3つの目標(①世界の人々に京都の魅力を伝え、もてなし基盤をつくる②世界の人々に京都の総合的な文化力を提示する③世界の人々と協働し、新たな創造の潮流を起こす)を掲げ、「文化芸術の振興」「地域振興」「産業振興」「国

際的な課題への対応」「教育、人材の育成」に波及させることができるように取り組むという。

地域固有の文化資源を活かして地域創造に取り組もうとする住民、職人、中小企業関係者、公共団体職員、NPO団体関係者、教育関係者、アーティスト等の一助となるのが本書である。(水曜社、2016年3月、2,500円+税)

上村 修三記(商昭53卒、創院平26修)

会費「5年分前納」10%お得!!

- 有恒会では会員皆様に年会費納入のお手数を煩わさないため「5年分前納」制度を採用しています。
- 年会費5千円ですが、5年分前納しますと、22,500円です。
- 10%割引です。
- 四連式払込票の金額を訂正してお払込み下さい。

